

3反半の農地で、年間約80種類の野菜を栽培

有機農業は「自立」にうってつけ！



昨年秋の畑の様子

有機農業者を増やしたい!!

今年7月3日、大阪の梅田スカイビルで新・農業人フェアが開かれた。年2回の開催はいつも盛況である。私は有機農業相談員として参加しているが、そのコーナーに相談に来られた20代の男性から1週間後にメールが入った。そして今、私の農場に研修に来ている。昨年は40代の男性が来て、現在も研修中。6月からは兵庫県丹波市の農家の息子が来ている。サラリーマンをしていたが実家に戻って農業をすることを決意。それに当たって、自著「自立農力」を読んで、規模縮小でやっていると興味を湧いたとのこと。現在10人の研修生がいる。プロ志望から自家菜園まで、また、通い研修なので週に1日の人から6日の人までいろいろ。このうち20代、30代が8人。

本誌4・5月合併号(415号)の「熱きくん!」に登場した鎌田桃子さんもその一人として書いているが、〈べじたぶる・はーつ〉では、「愛とやさしさと美しさ」を意識しながら、センスを磨くことも大事な要素として取り組んでいる。

もちろん、基本的には有機農業で生活ができることが前提であるが、そのためにも、これからはデザインとプランニングが必須と私は考えている。そこで研修生たちに話すのは、「センスがないのではなく、センスを磨いていないだけ」だということ。このことは有機農業の技術や作付け、管理、経営にも発揮できることとなるはずだ。

やってみたくなる農業を目指す!

「あの人の農業はすごい!」と思われても、それがやってみた



研修生たちとセミナーを行っている。
セミナーのあとに開いた今年の新年会。

農業実践者としての
ブレない軸を持つこ
とである。そして、
やってみたいと思わ
れる農業（やりたい
農業）と暮らしをす
ることだ。

私の場合は、それ
が規模縮小であり産
消提携である。現在、
約3反半の農地で年
間80種類ほどの野菜
を栽培し、「どれだ
け農地を減らしても
専業としてやってい

いと思われないのであれば、拡がりはしない。「あの人が話して
いることは正論だ」と多くの人が認めても、それが支持され拡が
るとは限らないのと似ている。身体のためにはやった方がいいと
分かっているもやらないし、身体のためにはやめた方がいいと分
かっているもやめない人が多いというのが今の社会状況である。
では、有機農業者が増えるにはどうするか、話しとすれば簡単
だ。「やってみたいと思われる農業」をすることだ。少なくとも
実践者がそれを目指さなければ、輝いてはこないだろう。
喰えるかどうか分からなくても、華やかな世界に若者は懂れる
だろうし、それを目指すだろう。農業には華やかさはないかも知
れないが、輝きを放つことはできる。そのためにも、まずは有機

けるか」をテーマに規模縮小路線を探究中。それが新規就農者へ
のハードルを下げる要因のひとつと考えている。やってみたくな
る農業を目指す！

「保障なき時代」に入ったこの国で、これから問われてくるの
が本質である。そして、本質を踏まえた生き方としての「自立」だ。
それには有機農業／運動がうってつけだろう、と私は勝手に思っ
ている。

有機農業の仲間を増やすのは、今や私の中ではミッションに近
い感覚である。と同時に、会員が減った減ったと言っていないで、
「入ってみたくなる」ような日本有機農業研究会を目指しましょ
うぞ、各々方。

ツテな話しをしようがしまいが、ま、イッパイやるべ、ご同輩。

尾崎零プロフィール

1973年から有機農業運動に関わり始め、78年、大阪府能勢町にて就農。
85年、生産者と消費者とが一体となった産消提携グループ「まわらぼうしの会」
を結成、会長となる。同年、有機農業に関心をもち府下の人たちとともに、大
阪府有機農業研究会（大有研）を結成、代表となる。以後、輸入食品の実態見学、
農業会社の研究所見学、大阪農塾、耕作放棄地再生プロジェクト等ユニークな
企画を実践。

94年、提携の次なるステップとして、「まわらぼうしの会」を産消循環自給農
場（じたぶる・はいつ）として改組。後に、それがCSAと似ていたことが分かる。
06年大有研20周年記念としてミュージカルを上演。また、同年、私の一年を
追いかけたドキュメンタリー映画「フランドン農学校の尾崎さん」が完成、08
年の国際有機農業映画祭等各地で上映される（9月23日開催の「国際有機農業
映画祭 in OSAKA」で上映と講演。情報交差点30ページ参照）。

自分が食べるものは自分で作るということを生きる基本としながら、経済性・
効率性重視の社会に対する問題提起として有機農業を実践。コンセプトは「生
命を大事にする社会の構築」。また、書くことも話すことも百姓のウチの一姓と
捉え、講演会や私立高校での客員講師も務める。大阪府有機農業生産者懇話会
代表。